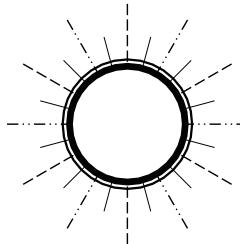


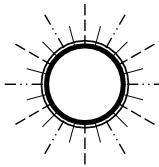


日米共同・太陽フレアX線 集光撮像分光観測ロケット実験 FOXSI-4

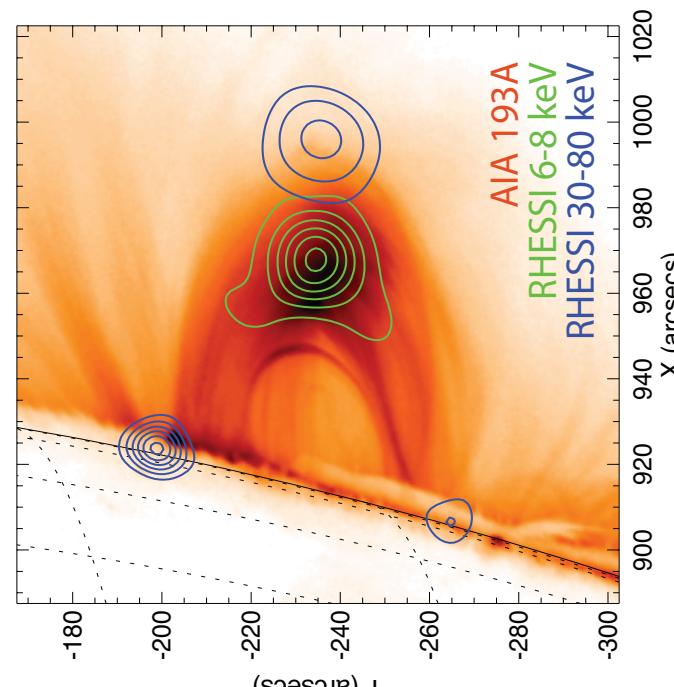


○ 成影 典之(国立天文台)、渡辺 伸、坂尾 太郎(宇宙研)、高橋 忠幸、
長澤 俊作、南 喬博(東大カブリIPMU)、三石 郁之(名大)、
川手 朋子(核融合研)、石川 真之介(立教大)、
L. Glesener、A. Pantazides、J. Duncan (University of Minnesota)、
W. Baumgartner、S. Bongiorno、P. Champey、S. A. Panchapakesan、
A. Winebarger (NASA/MSFC)、S. Christe、D. Ryan (NASA/GSFC)、
S. Courtade、S. Krucker、J. C. Buitrago-Casas、J. C. Martinez-Oliveros
(University of California, Berkeley/SSL)、
S. Musset (University of Glasgow)、J. Vievering (APL)

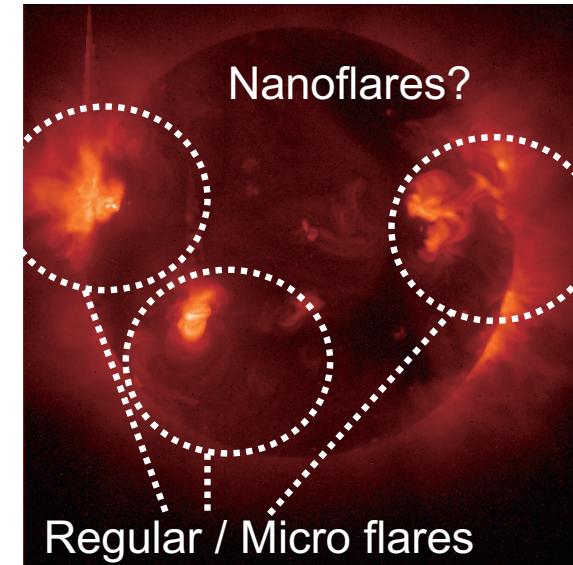
観測ロケット実験 FOXSI シリーズの科学目的



- ・太陽コロナにおける高エネルギー現象の理解（エネルギー解放、粒子加速、加熱）
- ・フレアループ上空の粒子加速場所の調査
- ・ナノフレアの調査とコロナ加熱への寄与の評価



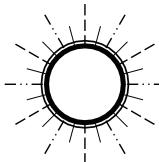
Krucker & Battaglia 2013



- ・静穏領域での粒子加速の調査
- ・活動領域での高温成分の調査



Focusing Optics X-ray Solar Imager (FOXSI)



太陽硬X線を直接集光する観測実証ロケット実験

- NASA の観測ロケットを使用
(Low Cost Access to Space の枠組み)
 - 高度100km以上で、5分間強の観測が可能
 - 全長 2m 強の観測装置が搭載可能
 - 1秒角以下の姿勢制御が可能
 - 再利用が可能
- FOXSIは、過去3度飛翔に成功



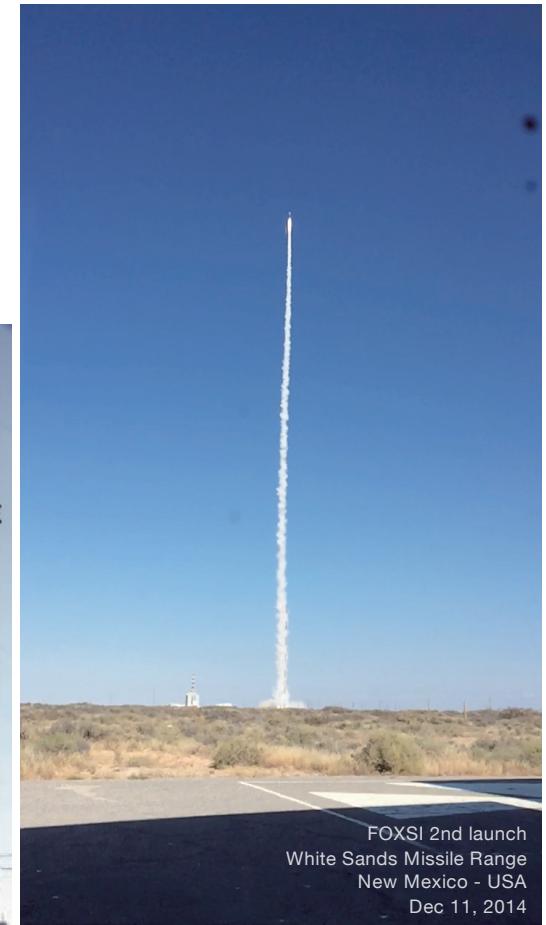
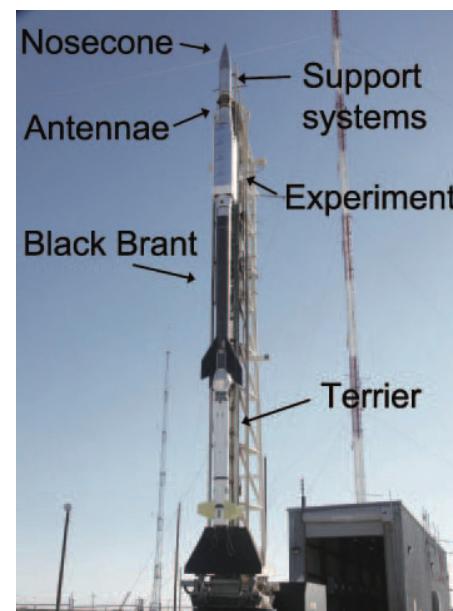
FOXSI-1
2012年



FOXSI-2
2014年

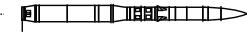
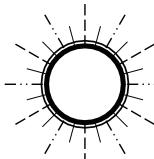


FOXSI-3
2018年





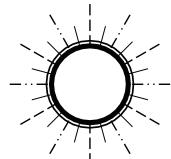
FOXSI シリーズの発展



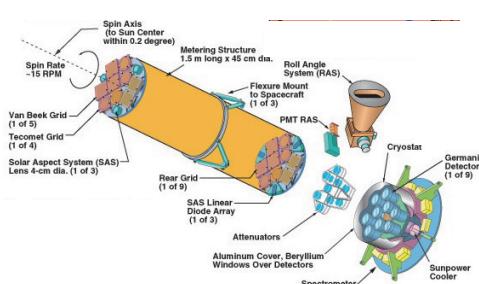
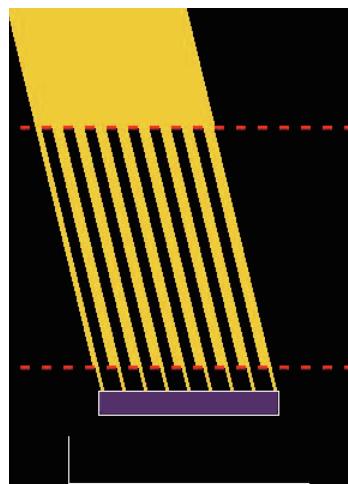
	FOXSI-1 	FOXSI-2 	FOXSI-3 	FOXSI-4 
観測対象	静穏領域	活動領域 静穏領域	活動領域 静穏領域	太陽フレア
観測波長	硬X線 5~30 keV		軟X線 0.5~10 keV	
望遠鏡	7 shells x 7 modules	10 shells x 2 modules 7 shells x 5 modules	(10 shells + blocker) x 1 (7 shells + collimator) x 2 10 shells x 3 modules 7 shells x 1 modules	high resolution optics x 5 10 shells x 2 modules
検出器	Si (7.7 arcsec) x 7 [for hard X-rays]	CdTe (6.7 arcsec) x 2 Si (7.7 arcsec) x 5 [for hard X-rays]	CdTe (6.7 arcsec) x 2 Si (7.7 arcsec) x 4 [for hard X-rays] + CMOS (1.1 arcsec) x 1 [for soft X-rays]	CdTe (6.7 arcsec) x 5 [for hard X-rays] + CMOS (1.1 arcsec) x 2 [for soft X-rays]



FOXSI-1 によりもたらされたもの 硬X線集光撮像分光観測の実現

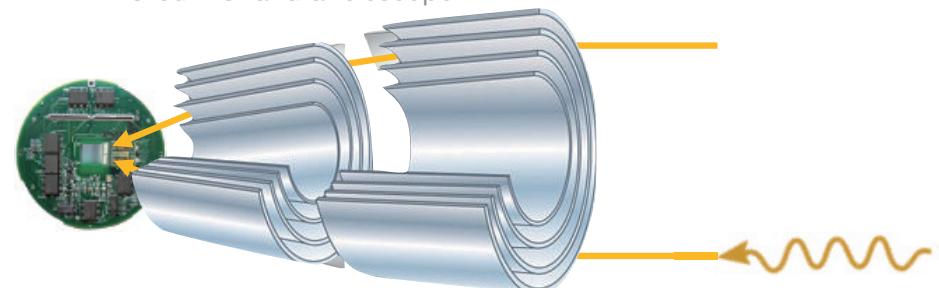


既存の観測装置 (RHESSI など)
すだれコリメータ + 検出器

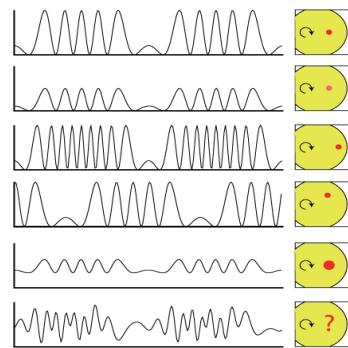


新しい観測装置 (FOXSI)
X線斜入射ミラー + 検出器

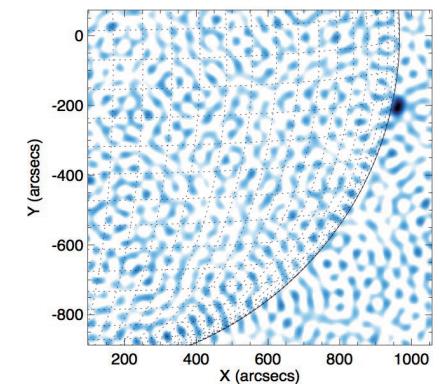
Credit: Chandra telescope



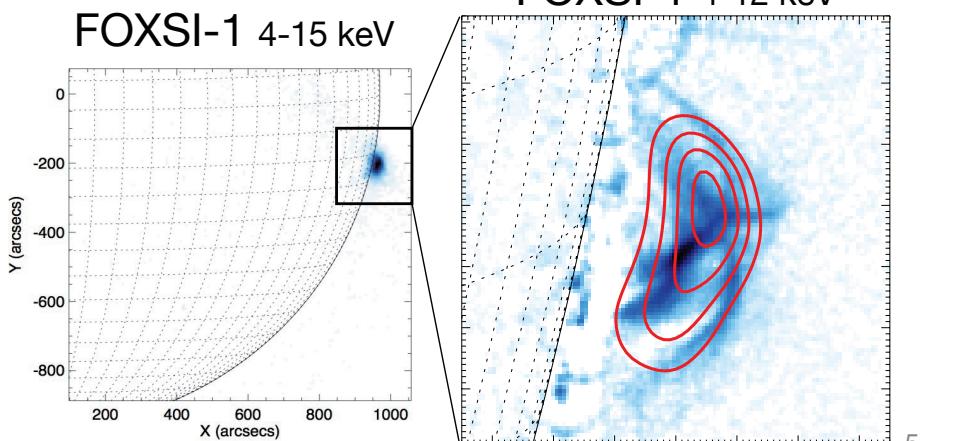
Wolter-I geometry



RHESSI 4-15 keV



FOXSI-1 4-15 keV

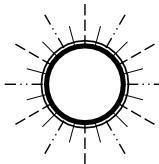


5

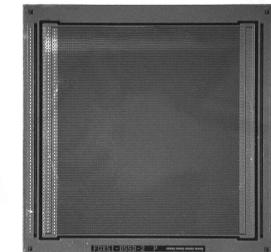
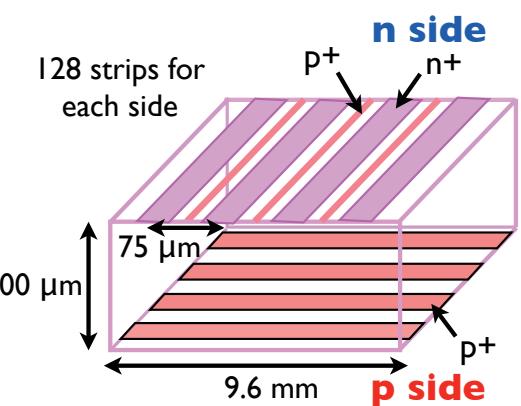


FOXSI-1, -2 の観測装置

(7つの独立したX線望遠鏡 → FOXSI-3 以降の発展へつながる)

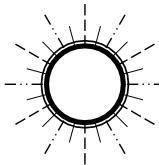


- Replicated Ni optics from NASA/Marshall
- Wolter-I shape
- Nested sets of 7 or 10
- FWHM ~5 arcsec
- HPD 25" (on-axis)

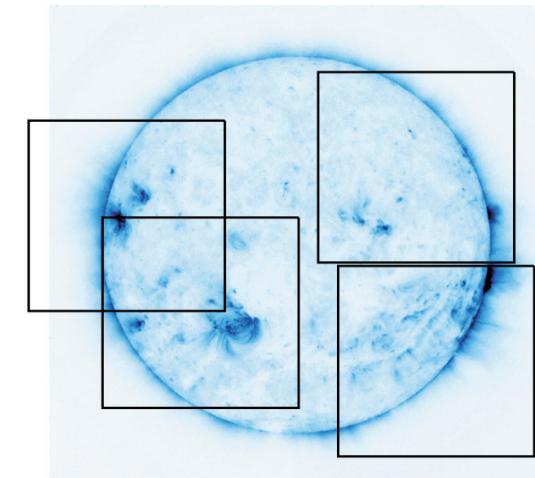
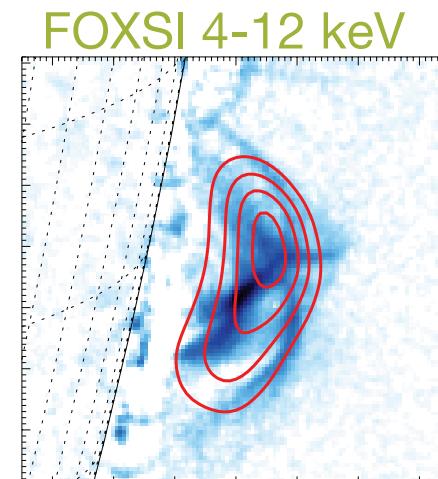
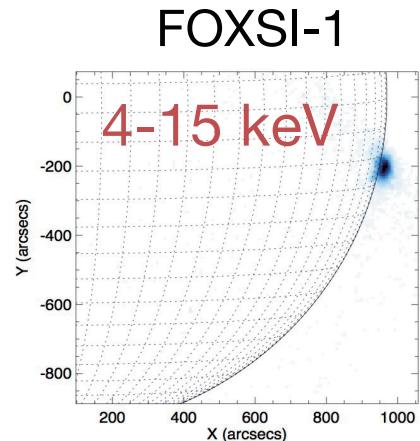
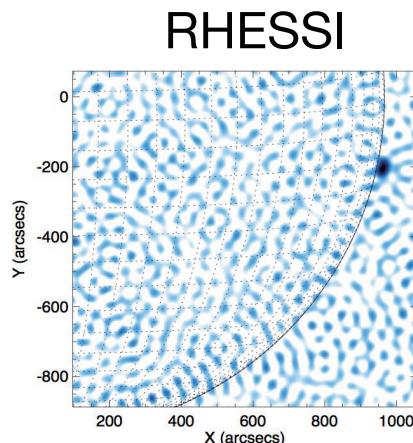
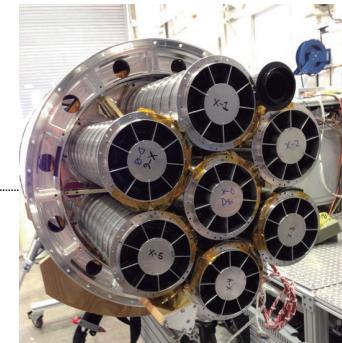


- 7 double-sided Si or CdTe strip detectors from JAXA/ISAS
- 75 (or 60) μm pitch, 500 μm thick
- Read out by low-power, low-noise ASICs

FOXSI-1: 2012年11月2日



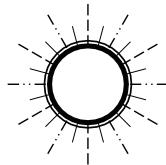
- 1回目のフライト：6.5分間の観測
 - 世界初の太陽硬X線（5 keV以上）集光観測に成功。
- 問題点：
 - ミラー1台が打ち上げ時の振動でズレた
 - サーマルブランケットが光路を塞いだ
 - 迷光によるバックグランドの増加



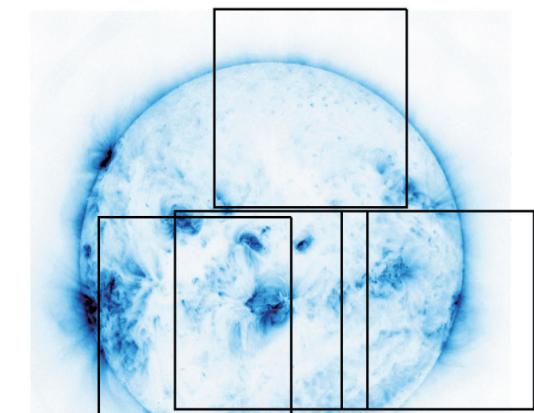
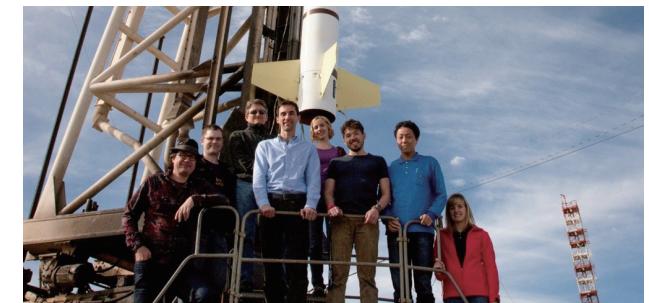
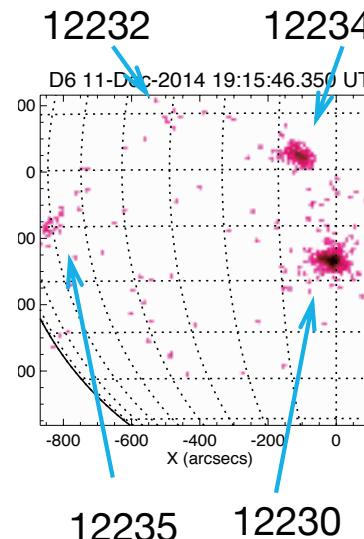
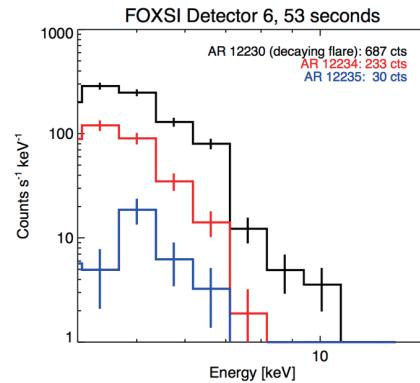
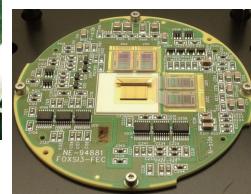
AIA 94A 2012 Nov 2
Launch 17:55 UTC



FOXSI-2: 2014年12月11日



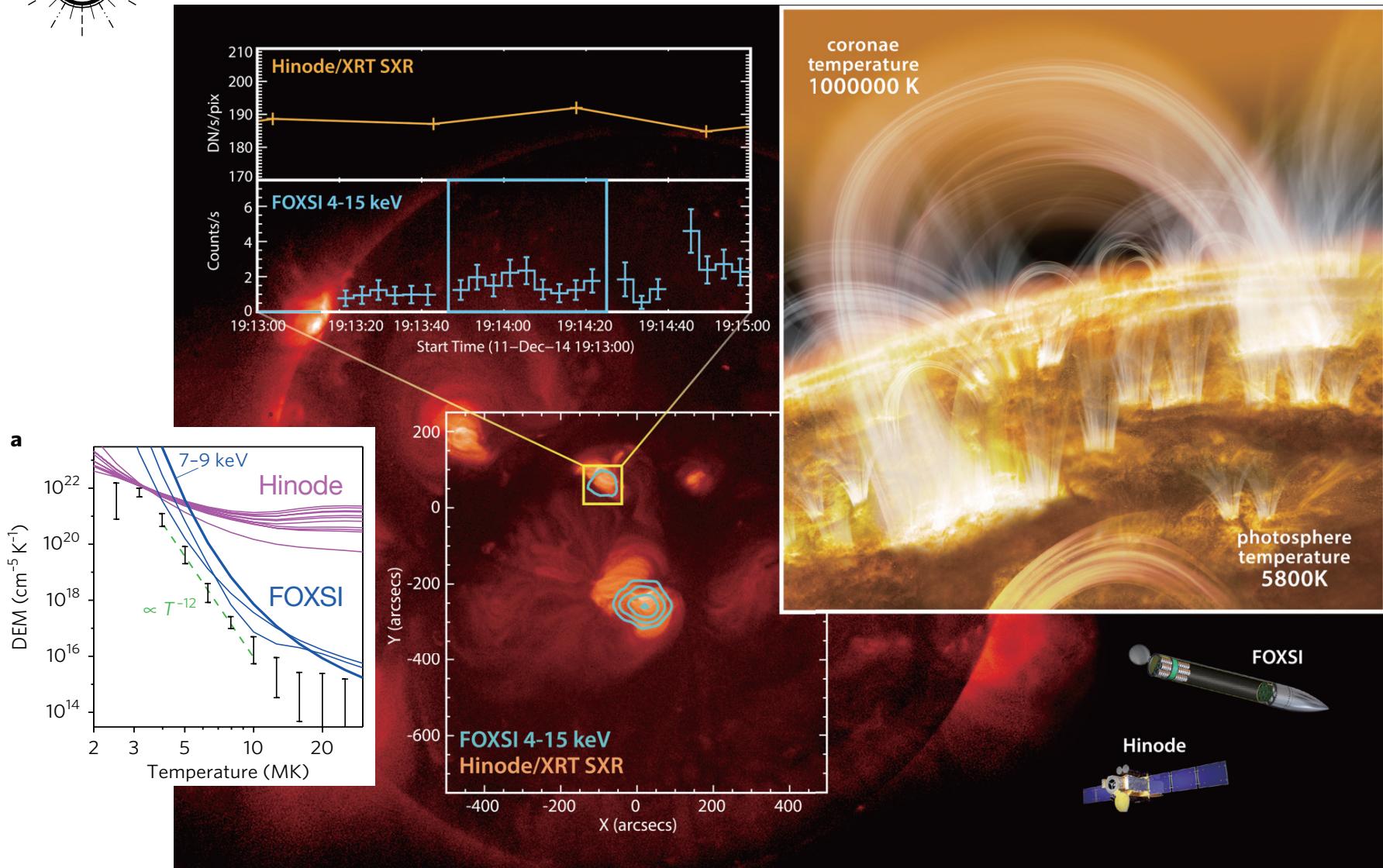
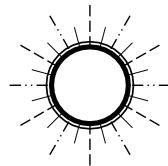
- FOXSI-1からのアップデート:
 - 2つの望遠鏡を10シェルに変更し、感度を向上させた
 - 2つのSi検出器をCdTe検出器に置き換え、感度を向上させた
- 2回目のフライト：6.5分間の観測
 - 2つのマイクロフレアと、4つの活動領域の硬X線撮像分光観測に成功。
- 問題点：
 - 迷光によるバックグラウンドの増加



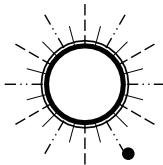
AIA 94A 2014 Dec 11
Launch 19:11 UTC



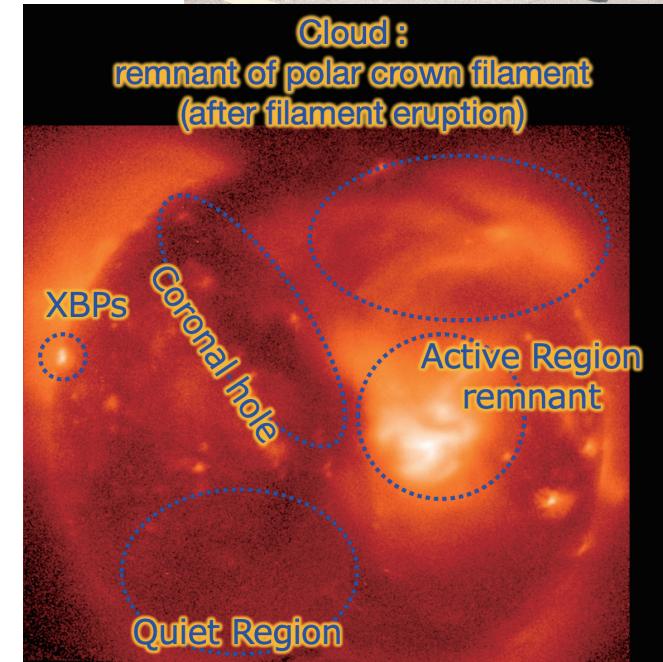
FOXI-2 の成果は Nature Astronomy に掲載 (Ishikawa et al. 2017)



FOXSI-3: 2018年9月7日



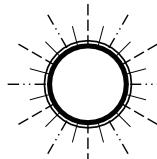
- FOXSI-2 からのアップデート:
 - 望遠鏡にコリメーターまたはブロッカーを設置し、迷光を除去した
 - CMOS 検出器を搭載し、軟X線の集光撮像分光観測を実施した
- 3回目のフライト：約6分間の観測
 - 活動領域、X線輝点、静穏領域、極域フィラメント、コロナホールなどを含む、太陽全面の軟X線撮像分光観測（世界初）に成功。



- 問題点：装置の問題点はなし
 - ただし、太陽活動が低く、硬X線のデータを十分に取得することができなかった。

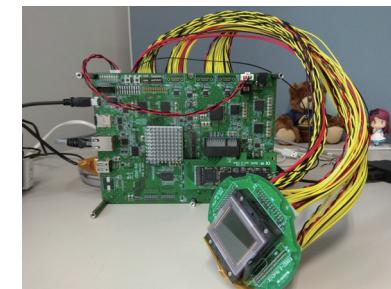
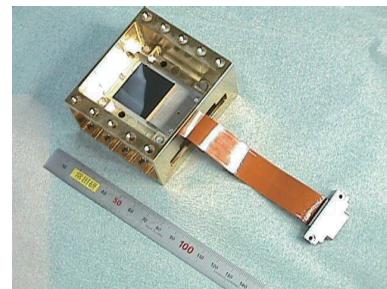


FOXSI-3によりもたらされたもの 軟X線集光撮像分光観測の実現



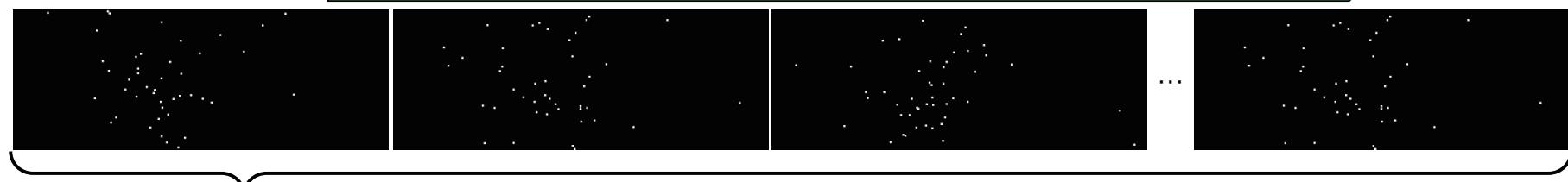
既存の観測装置（ようこう、ひので）
X線斜入射ミラー + CCD

新しい観測装置（FOXSI-3）
X線斜入射ミラー + CMOS

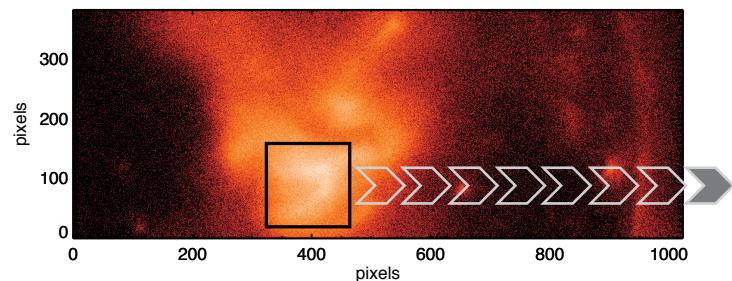


(a) 取得したデータ

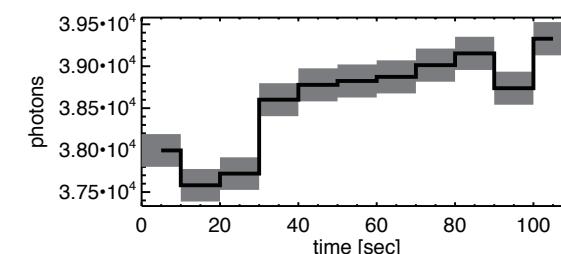
時間の流れ（1秒間に250枚の高速連続撮像）



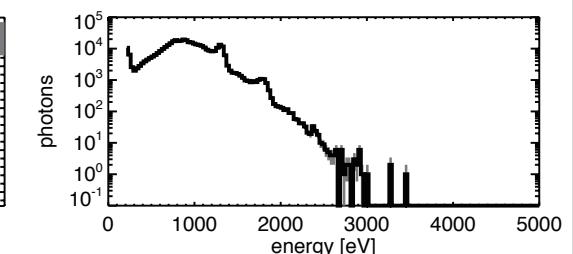
(b) X線光子を集めて作った太陽の画像



(c) 活動領域のX線光子数の時間変化

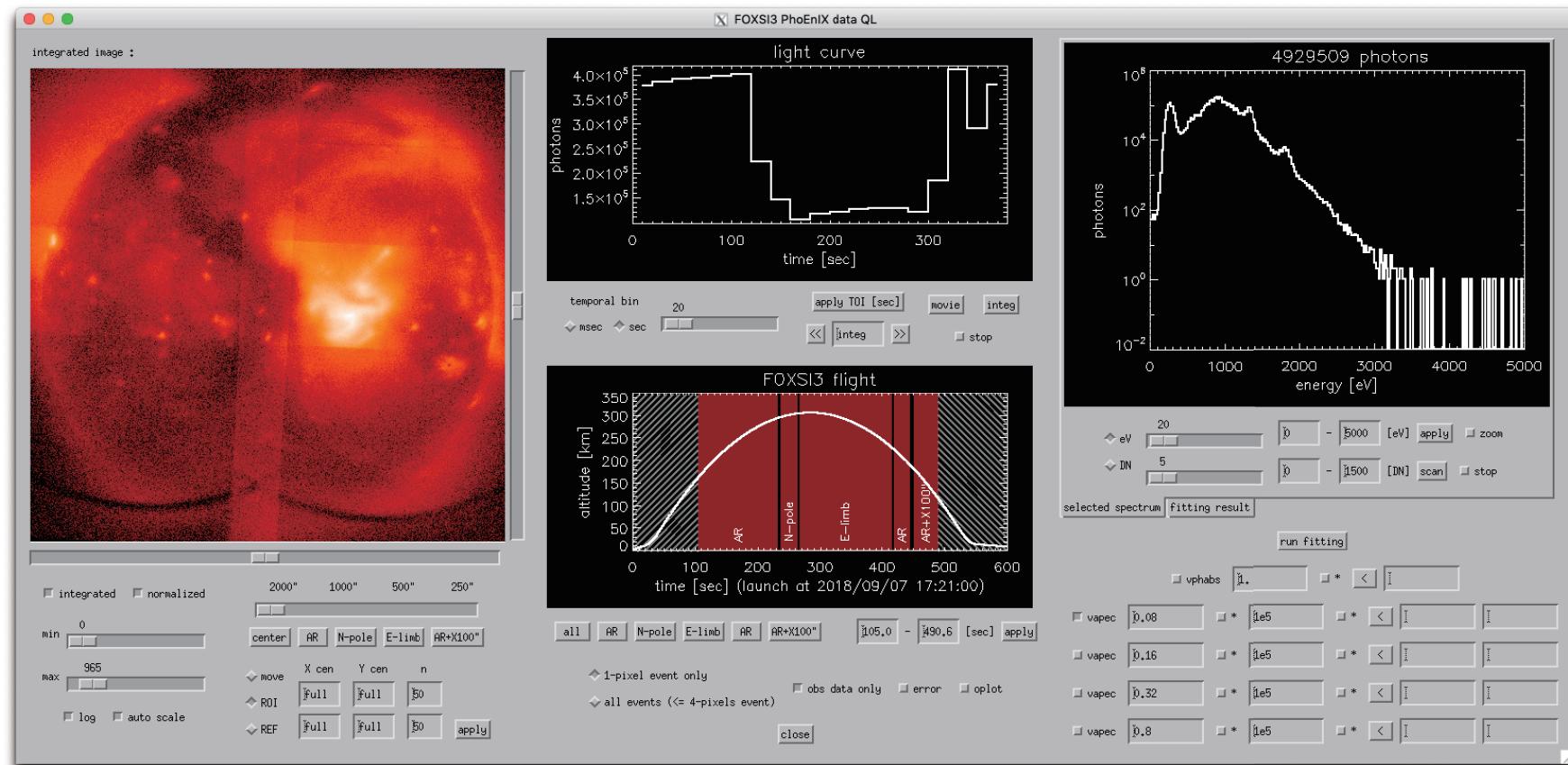
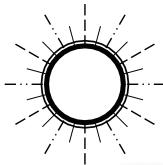


(d) 活動領域のX線スペクトル



FOXSI-3 によりもたらされたもの

高エネルギー プラズマに対する豊富な情報を持つ 軟X線スペクトル



FOXSI-3 のデータ解析用 GUI ツール

1. 解析したい領域・時間・エネルギー帯域の選択
2. 空間・時間・エネルギー binning の調整
3. スペクトルフィッティング (XSPEC を使用) が GUI で視覚的に行える。

12



FOXSI-4: 2024年春 いよいよ太陽フレア観測に挑む!!

<https://rscience.gsfc.nasa.gov/keydocs/SolarFlareCampaign.pdf>

Glesener, Lindsay 19-HFORT19-0016

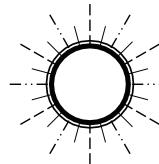
OVERALL GRADE (mark panel overall score with "X")

	Excellent	E/V G	Very Good	VG/ G	Good	G/F	Fair	F/P	Poor
'X': Overall grade.	X								



	July, 2020	2021	2022	2023	2024
Schedule	Proposal was accepted by NASA	Design & Development	Fabrication & Test	Integration & Test	Launch!!

観測ロケット実験 FOXSI-4 の科学目的



観測ロケットを用いた世界初の 太陽フレア観測 キャンペーン

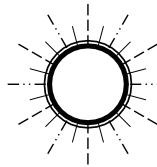
- Science objectives:
 1. Determine how much particle acceleration occurs in the gradual phase of a flare
 2. Produce images and spectra of flare footpoints from thermal to non-thermal energies
 3. Determine where non-thermal sources and heated plasma are located in a given coronal configuration
 4. Measure the spatial distribution of superhot sources in a flare
 5. Identify locations of energetic electrons in an erupting CME



観測方法: X線集光撮像分光観測
(FOXSI-3 のアップデート)



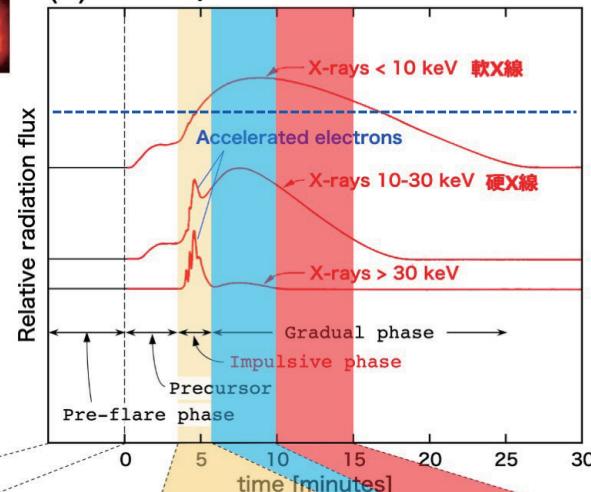
FOXSI-4 で実施するフレアキャンペーン



(a) フレアキャンペーンの打ち上げイメージ



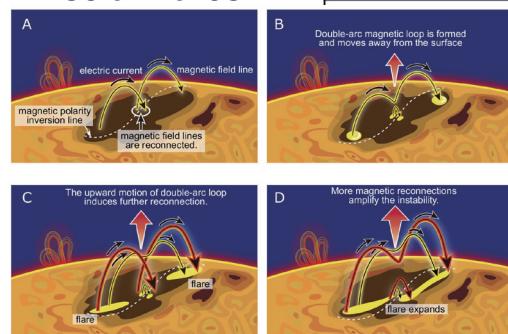
(b) Time profile of a solar flare



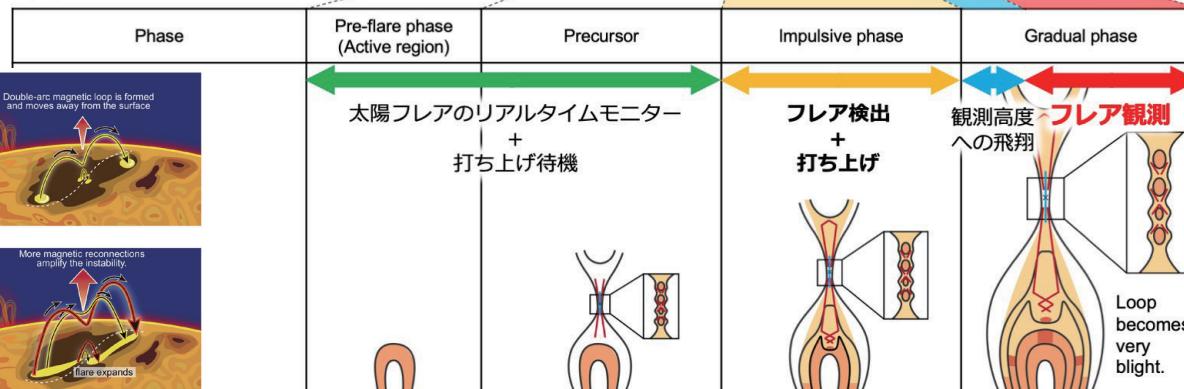
> GOES C5-class

太陽のX線強度をリアルタイムでモニター（GOES衛星を使用予定）、事前のフレア規模予測も参考にし、X線強度が閾値を超えた時点で打ち上げを行う。

Prediction of solar flares



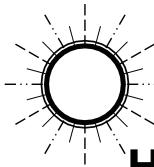
(c)



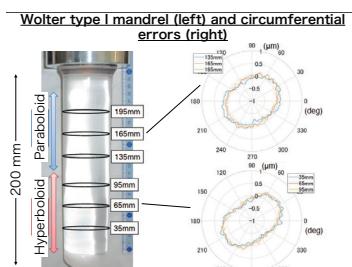
Kusano+ 2020



FOXSI-4 によりもたらされる 新機軸の太陽フレア高エネルギー plasma 観測

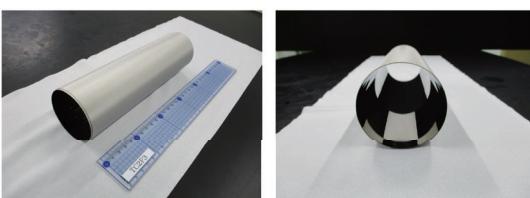


High-precision electroformed X-ray mirror

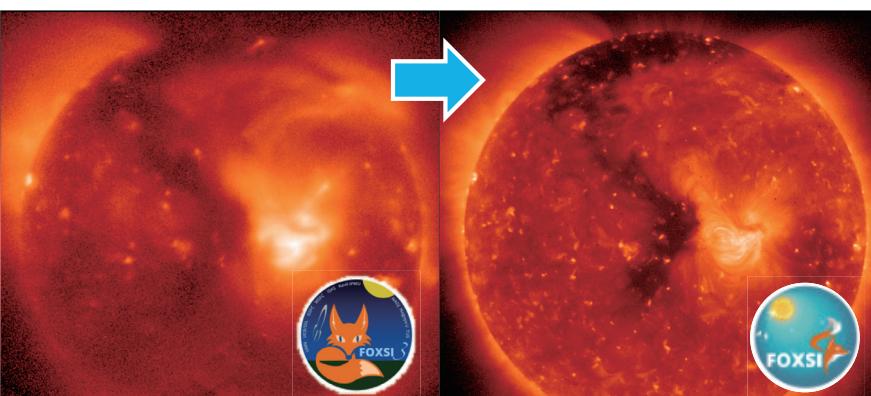


Goal (cf. FOXSI-3)

- <10" HPD (\leftarrow 30" HPD)
- <4" FWHM (\leftarrow 5" FWHM)



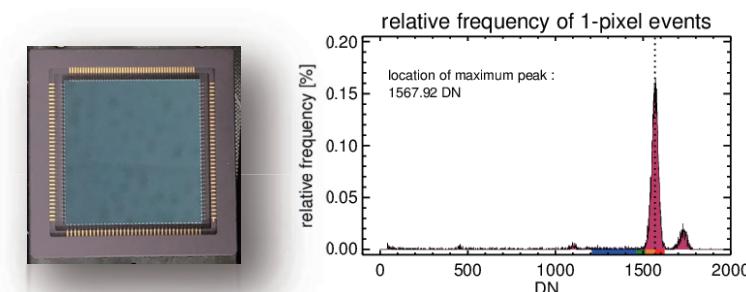
GO3-4
独自の次世代高性能
多重薄板型電鋳X線
望遠鏡の開発
瀧川歩
(名古屋大学)



Updated CMOS (for soft X-rays) & CdTe (for hard X-rays) detectors

CMOS detector (cf. FOXSI-3)
25 um depletion layer thickness (\leftarrow 4 um) for

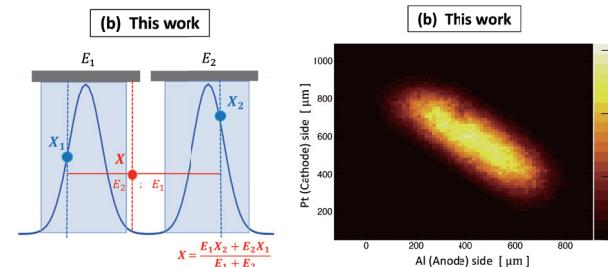
- Higher sensitivity to high-energy X-rays
- Higher robustness against X-rays



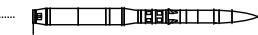
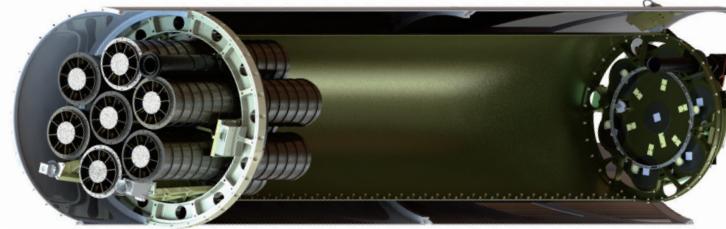
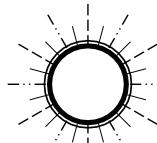
CMOS の
光子計測能力
(^{55}Fe 線源)

CdTe detector (cf. FOXSI-3)

- Position resolution (~30 μm \leftarrow 60 μm)
- High Count Rate (~5 k events / s / detector
 \leftarrow 500 events / s / detector)



FOXSI-4 の体制



軟X線装置

国立天文台

成影 典之 (Co-PI)

ISAS/JAXA

坂尾 太郎

核融合科学研究所

川手 朋子

立教大学

石川 真之介

軟X線カメラの開発・製作、コリメーターの開発・製作、軟X線装置の機器較正

名古屋大学

三石 郁之 (Co-I)

高精度X線ミラー、軟X線用フィルターの製作と較正

ミネソタ大学

Lindsay Glesener (PI)
A. Pantazides (PM)
J. Duncan

全体取りまとめ、硬X線検出器の評価

カリフォルニア大学 バークレー校

Sasha Courtade (Co-I)
Säm Krucker (Co-I)
Milo Buitrago-Casas
J. C. Martinez-Oliveros

マネージメント、構造の製作

NASA マーシャル

W. Baumgartner (Co-I)
S. Bongiorno (Co-I)
P. Champey (Co-I)
S. A. Panchapakesan
A. Winebarger

X線ミラーの製作と較正

硬X線装置

東京大学 IPMU

高橋 忠幸 (Co-PI)
長澤 俊作
南 喬博

ISAS/JAXA

渡辺 伸 (Co-I)

硬X線検出器の開発・製作

NASA ゴダード

Steven Christe (Co-I)
Daniel Ryan

減光フィルター、アライメント望遠鏡

APL

J. Vievering (Co-I)

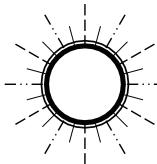
University of Glasgow

S. Musset (Co-I)

観測計画



FOXSI における日本のcontriビューション



- FOXSI シリーズは、1号機 (FOXSI-1) から高橋グループ（当時、宇宙研；現、東大 IPMU）が **fine pitch の硬 X 線焦点面検出器**を投入することで実現した。

【背景】

- CdTe や Si を用いた検出器技術をもっていた。

- カリфорニア大学バークレイ校との良好な関係を構築していた。

- FOXSI-3 からは、成影（国立天文台）らが、**軟 X 線用高速度カメラとコリメーター**を開発し、FOXSI-3の主要アップデートに貢献した。

【背景】

- X線測定に使えるCMOSセンサーを世界に先駆けて評価していた。

- X線用高速度CMOSカメラ（エレキ）の開発技術をもっていた。

- 最新の金属3Dプリンター技術に目をつけ、活用することが出来た。

- FOXSI-1, 2 での日米協力の成果があった。

- FOXSI-4 からは、三石（名古屋大学）らが、**X 線用高精度電気鋳造ミラー**を開発し、**空間分解能の向上**に貢献する。

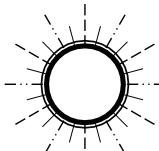
【背景】

- 東京大学工学部との連携により、X線天文用高精度電気鋳造ミラーの基礎開発を開始していた。

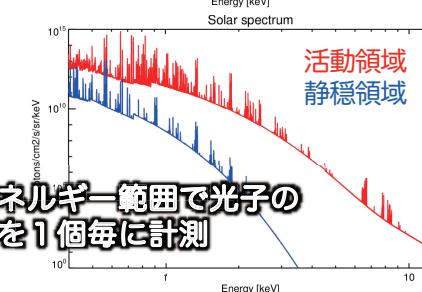
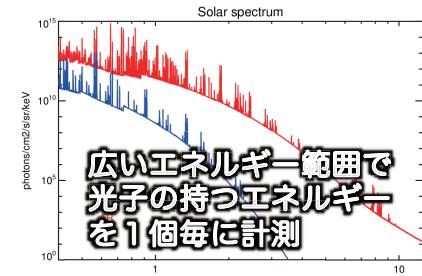
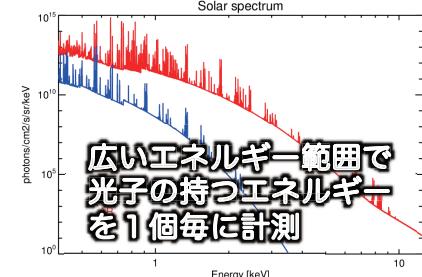
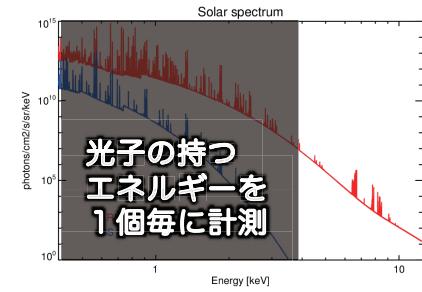
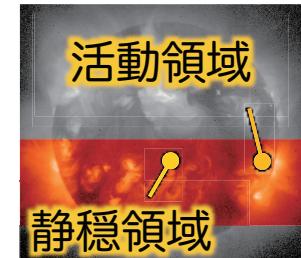
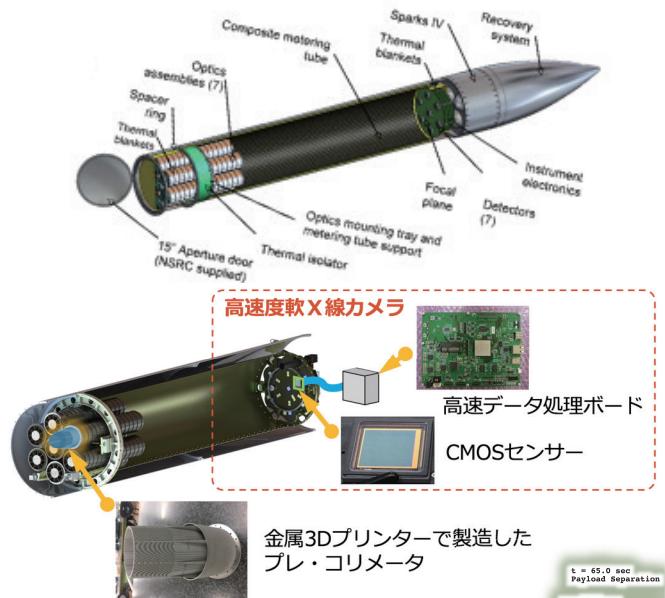
- IXPE の開発で FOXSI のミラーを開発した NASA/MSFC との協力関係を構築していた。



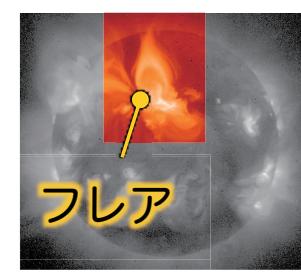
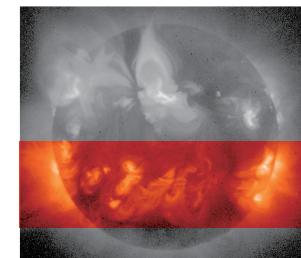
観測ロケット実験 FOXSI の先



ロケット実験
FOXSI-1, 2
(2012年, 2014年)



ロケット実験
FOXSI-3
(2018年)



ロケット実験
FOXSI-4
(2024年春)

世界初の太陽フレア
X線集光撮像分光観測

軟X線望遠鏡
硬X線望遠鏡
軟ガンマ線検出器



「PhoENiX」衛星
(2030年代はじめ)

GO3-1
磁気リコネクション
に伴う粒子加速の理
解を目指す衛星計画
PHOENiX
成影 典之
(国立天文台)

